

[現状と課題]

■近年は奈良ブロック協議会の会員数の減少や新型コロナウイルス感染症が収束しない、先行きが不透明な社会状況であります。私たち青年経済人は新しい生活様式、経済活動を見据え構築し、この厳しい時代を切り拓き、県民とともに今まで受け継いだ伝統と文化を兼ね備えた地域として資産を掘り起こし、大和の文化を未来へ継承し、地域の活力とJC運動について共感を生む機会の創出が必要です。

[目的]

■社会環境が大きく変化する中で、地域社会の次代を担う私たち青年経済人が互いに交流と連携の輪を拡げ、JCの役割を認識し、JC運動を通じて地域の活力や魅力について共感を生み、今まで受け継いだ歴史と芸術と文化のある地域資源や地場産業を有効的に活用しながら、賑わい溢れるまちの創出を図ることを目的とします。

[事業内容]

■運動1

第50回ブロック大会記念事業の開催及び開催地行政への実施報告

(事業)

1) 実施に至る背景：

近年、新型コロナウイルス感染症の拡大やIT技術の進展と共に社会環境が目まぐるしいスピードで変化しています。私たちは、行政や諸団体及び県民とともに今まで受け継いだ伝統と文化を兼ね備えた地域として資産を掘り起こし、魅力を備えた地域の価値を発信し青年の活力を湧き立たせ、まちを動かす力を醸成させる機会の創出が必要です。

2) 目的：

JCと共に行政、諸団体、県民が一枚岩となり、地域の資源や魅力を再発見し、今まで受け継いだ歴史と芸術と文化のある地域資源や地場産業を有効的に活用しながら、賑わい溢れるまちの創出を図ることを目的とします。

3) 事業内容：

ブロック大会記念事業が一過性で終わるものではなく、これからの奈良ブロック協議会の運動が目指すべき最適な形を維持する運動を展開します。開催地行政が展開する運動や奈良ブロック協議会が掲げる運動をより良くするためのブロック大会記念事業を創出します。

4) 実施期間： (予定) 2022年6月18日(土) or 19日(日)

5) KGI： 上記目的に対するアンケート調査を行い、満足度調査80%の達成。

アンケート対象者はブロック大会に参加するJC、行政、諸団体、県民に対して行う。

数値として参加者に目的に対するアンケート調査(できた、どちらでもない、できなかった)を行います。

6) 得られる効果：第50回ブロック大会記念事業を開催するにあたり、5益(地域益、社会益、参加者益、主催者益、主管益)が得られます。

地域益→事業構築段階より各団体が協働し、一枚岩となって大会を構築することで、地域内の連携、団結が強まり、今後の地域の抱える問題に対して、大きな力となって取り組んで行くことができます。

社会益→奈良及び天理の魅力を発信することで、多くのひとの共感を呼び、奈良の明るい豊かな社会の実現につながります。

参加者益→参加された来場者の方々には、自分たちの住む奈良及び天理が持つ魅力と地域を活性させようとする熱い想いを出演者、スタッフと共に体感して頂くことで、明日への活力を見出すことができます。

主催者益→会場内での青年会議所の運動のPRができる為、県民への認知と、その成果による求心力によって、会議所自体の会員拡大、活力増大につながります。

主管益→天理青年会議所メンバー全員が当事者意識を持ち中心となって事業を行うことで、個人の自立性を養い、奈良ブロック協議会内等で生き生きと協和していくことで天理青年会議所全体の成長へとつながります。

7) パートナー：官公庁(協力)、各諸団体(協力)、JC日本(協力)、近畿地区協議会(協力)、県内9LOM(協力)

■運動2

中期ビジョン策定の支援推進（プロ連）

（推進）

1) 実施に至る背景：

ビジョンとは地域にどうあってほしいかの願いを具現化したものであり、その願いを理解することが各地域の当事者である若者に共感を生み出します。そして地域を彩るビジョンは地域の多様な方々の想いが詰まったものであるべきであり、地域の未来を背負う青年世代の声が届く社会をつくる必要があります。

2) 目的：

地方創生の核となる地域の青年世代を取り込む重要性を促し、社会雰囲気創出することを目的とします。

3) 事業内容：

私たち青年経済人が地域と向き合い、各L O Mとして中期ビジョンを策定するための課題の抽出からリアルな具体策を模索します。モデルは2023年度50周年を迎えるL O M（天理、大和郡山、法隆寺）と仮定し中期ビジョンとなる5カ年計画を策定致します。策定した中期ビジョンを各担当地域の行政へ報告することで地域及び全体最適のビジョンを生み出す装置をつくります。

4) 実施期間： 2022年1月～2022年11月

5) K G I： 若者の意見を中期ビジョンに入れるべき意見が集約され提言できる状態。

6) 得られる効果：

共感を求めたビジョンの策定は各L O Mや地域で展開される運動が全体最適化を生み出すためのリアルな判断基準となり、多様な職種や人々によって構築される運動においても目指すべき行先として機能を果たすことにつながります。

7) パートナー：J C I日本ビジョナリーシティ会議（協働及び協力）、各担当市町村（報告）

■運動3

第50回ブロック大会記念式典の実施

(事業)

1) 実施に至る背景：

本年度のブロック大会は第50回という歴史を積み重ねた節目の大会となります。ブロック大会は各メンバーが一堂に会し、刺激し合い、互いを高める場であります。私たちの活動を見守りながらご協力を賜っている行政、諸団体および先輩諸兄に対して、奈良の明るい豊かな社会の創出を図る私たちのJC運動に対して共感して頂き、理解を得る機会が必要です。

2) 目的：

(対外)

日頃から地域でのJC運動にご理解ご協力を賜っている来賓の皆様に対し、感謝の想いを込めつつ、奈良の明るい豊かな社会の創出に向けて地域の人々と未来をつくりあげていきたいという奈良ブロック協議会の想いを発信することを目的とします。

(対内)

本式典に参加することで、一人ひとりがLOMの垣根を越えて奈良ブロック協議会の一員としてJC運動を発信及び認識し、さらにはこれまでの青年会議所活動を振り返り、今後の考動へと結びつけていくことを目的とします。

3) 事業内容：

大会式典はJCに関わる関係者の方々に、私たちの想いをお伝えし、運動にご理解頂きご協力を賜る場と考えます。これまでの伝統を引継ぎ、メンバーが一丸となって大会式典に取り組みます。さらに、第50回の節目を迎えるブロック大会より過去の先輩諸兄が積み重ねてこられたブロック大会を振り返る設えも実施します。

4) 実施期間： (予定) 2022年6月18日(土) or 19日(日)

5) KGI： 上記目的に対するアンケート調査を行い、満足度調査80%の達成。

数値として参加者に目的に対するアンケート調査(できた、どちらでもない、できなかった)を行います。

6) 得られる効果：

第50回の伝統を受け継ぐ大会式典を通じて、これまでの歴史や重みを感じ、奈良ブロック協議会が一つであり、これからは奈良ブロック協議会の力を結束して奈良の賑わい溢れるまちの創出に向けて、LOMを超えて共に歩いていく意識共有が得られると考えます。

7) パートナー：官公庁(協力)、各諸団体(協力)、JC日本(協力)、近畿地区協議会(協力)、県内9LOM(協力)

■運動4

近畿地区大会への対応

(事業)

1) 実施に至る背景：

近年の人口減少や高齢化の影響により、各地域コミュニティ機能の低下や地域住民の相互扶助の精神と郷土愛の希薄化をもたらしています。地域課題を認識し、当事者意識をもって解決に向け構築された近畿地区大会へ積極的に参画する必要があります。

2) 目的：

多くの同志が活躍する近畿地区大会にて、地域が描く未来に共感し、また地域課題を身近に感じることで、地域の青年経済人として課題解決に向けた当事者意識を醸成することを目的とします。

3) 実施期間： (予定) 2022年7月

4) 事業内容：

近畿地区大会高槻大会の事業内容に沿って支援促進及び事業を行います。

5) KGI： 上記目的に対するアンケート調査を行い、満足度調査80%の達成。

数値として参加者に目的に対するアンケート調査（できた、どちらでもない、できなかった）を行います。

6) 得られる効果：

奈良ブロックメンバーが近畿地区大会に参加し、開催地の歴史や文化に触れることによって、新たな経験を得て、個々の成長につながると考えます。また、近畿地区大会の参加経験を各LOMにもち帰り、今後のLOM事業や活動に組み込むことができます。

7) パートナー：JCI日本（協力）、近畿地区協議会（協力）、県内9LOM（協力）